



大沼小の5～6年生児童向けに、心の健康に関する寸劇をする関係者＝日立市東大沼町

悩み「抱え込まないで」

日立・大沼小 児童、心の健康学ぶ

子どもたちの心の健康に関する勉強会が9日、日立市東大沼町の市立大沼小で行われ、5～6年生児童175人と保護者が精神保健の専門家の話に聞き入った。友人関係や交流サイト(SNS)による悩みや心の不調が生じやすいことから、教員らによる寸劇も交え、相談することの大切さを分かりやすく伝えた。

「きいてみよう、こころの声」と題し、市民団体「ハートねつと日立市民の会」が企画した。

県精神保健福祉士会の富田靖英会長は、小学生の64%が悩みがあるとする調査を基に、誰でも疲れから不調になることがあり、ストレスがあふれてしまうことで病気の症状が出る例を示した。「自分や友達の心のSOSに気づき、言葉で伝えること。一人で抱え込まないで」と呼びかけた。

市民団体の弓野孝子会長らは同校の教員とともに寸劇を演じた。児童役が友達に「ちょっと聞いてほしいんだけど」と話しかけ、聞き役が「そのくらい大丈夫」と受け流してしまう悪い例

と、「どうしたの」と親身に聞いてあげる良い例を示した。児童は興味深い様子で見入っていた。

6年の狐塚天希さん(12)は「自分の心のサインに気づいて親に相談したい」、同じく橋本柊さん(12)は「相手をちゃんと見て寄り

添うのが大事だと思った」と感想を話した。同校の坪聡子校長は勉強会の意義について「中学になると不登校につながることもある。(心の問題を)小学高学年の時から知ることです。防ずる第一歩にしたい」と語った。

(綿引正雄)